

平成6年度作況一覽

秋播小麦	大豆	小豆	菜豆	ばれいしょ	てんさい
良	良	不良	不良	不良	不良

I. 気象概況

平成5年9月から平成6年10月までの概況は次のとおりである。

平成5年9月：

平均気温は上旬が低かったほかは、平年よりやや高かった。降水量は上旬が少なかったほかは平年並であった。日照時間は上・中旬がやや少なく、下旬が平年よりかなり少なかった。

10月：

平均気温は上・中旬が平年並、下旬が高かった。降水量は上・中旬が平年より少なく、下旬が多かった。日照時間は上旬および下旬が平年より少なく、中旬が平年並であった。初霜は10月28日で平年より10日遅かった。

11月：

平均気温は中旬が高かったほかは平年並であった。降水量は上旬が少なく、中・下旬が平年並であった。日照時間は下旬がやや少なかったほかは平年並であった。

12月：

平均気温は全般に平年より高かった。降水量は中旬が少なく、下旬が多く、月の合計では平年並であった。日照時間は上・中旬が平年並、下旬が平年よりかなり少なかった。根雪始は12月9日で平年より2日遅かった。

平成6年1月：

平均気温は低めに経過し、降水量は全般に平年より少なかった。日照時間は上・中旬が平年並、下旬が平年より多かった。

2月：

平均気温は平年より高く、とくに下旬がかなり高かった。降水量は平年よりやや多かった。日照時間は月をとおして平年より少なかった。

3月：

平均気温は平年より低く、降水量は平年より多かった。日照時間は月をとおして平年よりかなり少なかった。

4月：

平均気温は中旬をのぞき、やや低かった。降水量は上・中旬が平年並、下旬がかなり少なかった。日照時間は下旬が平年よりやや少なく、上・中旬が平年並であった。根雪終は4月8日で平年より2日遅く、積雪期間は119日で平年並であった。また、耕鋤始は平年並の4月22日であった。晩霜は4月27日で平年より9日早かった。

5月：

平均気温は上・中旬がほぼ平年並で、下旬がかなり高かった。降水量は多かった。日照時間は上旬が平年より少なく、中旬が平年よりやや多く、下旬が平年並であった。

6月：

平均気温は中旬が平年よりやや高かったほかは、平年よりやや低かった。降水量は上・中旬が平年よりかなり少なかった。日照時間は中旬が平年よりやや多く、下旬がやや少なかった。

7月：

均気温は中・下旬が平年よりやや高かった。降水量は上旬が平年より多く、中・下旬が平年よりかなり少なかった。日照時間は上旬が平年よりかなり少なかったほかは、ほぼ平年並であった。

8月：

平均気温は月をとおして平年より高めであった。降水量は中・下旬が平年より多かった。日照時間は中旬が平年よりかなり少なかった。

9月：

平均気温は月をとおして平年より高めであった。降水量は上旬が平年より少なく、中・下旬が平年より多かった。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中・下旬が平年より少なかった。

10月：

平均気温は上旬が平年より高かったほかは平年並であった。降水量は月をとおして平年より少なかった。日照時間は下旬が多かったほかは平年並であった。なお、初霜は10月25日で平年より5日遅かった。

以上、農耕期間(4月～10月)の気象を要約すると、気温は、積算平均気温が3256℃で平年より209℃高く、とくに、5月下旬、7月中旬～8月上旬、9月中旬及び10月上旬は平年より2.0℃以上高かった。降水量は714mmで平年より135mm(平年対比123%)多かった。日照時間は1109時間で平年より173時間少なかった。

季節表

年次	根雪始 (5年.月.日)	根雪終 (月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月.日)	耕鋤始 (月.日)	晩霜 (月.日)	初霜 (月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (月.日)
本年	12.9	4.8	119	4.19	4.22	4.27	10.25	180	11.4
平年	12.7	4.6	119	4.9	4.23	5.6	10.20	166	11.2
比較	2	2	0	10	△1	△9	5	14	2

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

農耕期間の積算値

項目 期間		平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
4～ 10月	本年	3,256	4,342	2,159	714	1,109
	平年	3,047	4,118	1,974	579	1,282
	比較	209	224	185	135	△173
5～ 9月	本年	2,788	3,528	2,030	634	765
	平年	2,580	3,335	1,823	415	932
	比較	208	193	207	219	△167

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

II. 平成6年度の作況

1. 秋播小麦 平成6年度の作況:良

事由:播種は平年より1日遅い9月13日に行った。播種直後の降雨で土壌が緊密化し、また種子の発芽速度がやや遅かったため出芽は不整でしかも劣り、越冬前の生育は劣った。圃場が防風林の横で積雪が少なく、また融雪剤を散布したため当場の平年の融雪期より4日早い4月2日に融雪期に達した。圃場の乾燥が速やかであったため雪腐病は非常に少なく、4月および5月は適湿に推移したため生育は回復し、茎数が確保され、草丈も上回った。出穂期および成熟期はほぼ平年並であった。7月上旬の不順な天候によりやや登熟は遅れ気味であったが、中旬以降の高温により中生の2品種は半ば枯れ上がるように成熟した。子実重は穂数が著しく多かったため平年比109～130%と多収であった。千粒重は急激な枯れ上がりなどもありやや低かった。外觀品質は「チホコムギ」でやや劣った他は良好であった。以上により、平成6年度の作況は良である。

品種名 項目/年次	ホロシリコムギ			タクネコムギ			チホコムギ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(平5.月.日)	9.13	9.12	1	9.13	9.12	1	9.13	9.12	1	
出芽期(平5.月.日)	9.22	9.20	2	9.20	9.20	0	9.22	9.20	2	
出穂期(月.日)	6.8	6.9	△1	5.31	6.1	△1	6.9	6.9	0	
成熟期(月.日)	7.24	7.23	1	7.18	7.15	3	7.23	7.22	1	
草丈 (cm)	平5.10月20日	17	21	△4	19	21	△2	17	22	△5
	5月20日	55	45	10	54	45	9	53	42	11
	6月20日	107	98	9	104	99	5	97	87	10
茎数 (本/㎡)	平5.10月20日	375	1102	△727	726	1205	△479	423	1221	△798
	5月20日	1404	1038	366	1373	1114	259	1470	1019	451
	6月20日	713	549	164	883	687	196	680	639	41
成熟期に おける	稈長(cm)	100	93	7	106	89	17	93	82	11
	穂長(cm)	9.7	8.3	1.4	8.3	7.5	0.8	8.3	6.8	1.5
	穂数(本/㎡)	621	481	140	836	648	188	673	565	108
子実重(kg/10a)	600	461	139	447	381	66	494	455	39	
リットル重(g)	770	752	18	791	792	△1	732	737	△5	
千粒重(g)	44.5	45.6	△1.1	38.4	39.3	△0.9	38	40	△2.0	
品質(等級)	1	1	—	1	2上	—	2中	1下	—	
子実重平年対比(%)	130	100	30	117	100	17	109	100	9	

注) 平年値は前7か年中、昭和62年、昭和63年(各収穫年度)を除く5か年平均。

ただし、「チホコムギ」の5月および6月の草丈および茎数は平成2年も除く4か年平均。

2. 大豆 平成6年度の作況:良

事由:播種は5月20日で、平年より3日遅かった。播種後の豪雨とその後の乾燥のため土壌表面がクラスト状になり、出芽が危ぶまれたため芽出しを行い、そのため出芽期は平年並であった。出芽後、6月中・下旬の降水量が少なくやや干ばつ気味で生育が抑制されたが、7月上旬の降雨と中旬の高温により生育は回復し、開花期は平年並であった。その後も高温に経過し、登熟は順調であり、成熟期は「ユウヒメ」では2日、「ユウヅル」では5日平年より早かった。成熟期の主茎長、主茎節数、分枝数はほぼ平年並であった。収量構成要素は「ユウヒメ」では着莢数が平年を15%上回り、一莢内粒数、百粒重は平年をやや下回った。一方「ユウヅル」では着莢数は平年をやや下回ったが一莢内粒数、百粒重はやや平年を上回った。この結果、子実重は「ユウヒメ」が428kg/10aで対平年比は133%、「ユウヅル」が415kg/10aで対平年比が137%と大幅に平年を上回った。品質(検査等級)は「ユウヒメ」、「ユウヅル」ともに平年を上回った。
以上により、平成6年度の作況は良である。

品種名 項目/年次	ユウヒメ			ユウヅル			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.20	5.17	3	5.20	5.17	3	
出芽期(月.日)	6.7	6.6	1	6.6	6.5	1	
開花期(月.日)	7.23	7.22	1	7.28	7.29	△1	
成熟期(月.日)	10.3	10.5	△2	10.11	10.16	△5	
主茎長 (cm)	6月20日	11.2	9.0	2.2	8.8	7.8	1.0
	7月20日	34.5	34.7	△0.2	28.2	29.8	△1.6
	8月20日	49.0	52.4	△3.4	62.3	64.7	△2.4
	9月20日	49.0	52.0	△3.0	63.9	65.4	△1.5
	成熟期	52.0	52.2	△0.2	63.7	64.5	△0.8
主茎節数 (節)	6月20日	3.1	2.7	0.4	3.0	2.8	0.2
	7月20日	9.0	8.8	0.2	8.7	8.7	0.0
	8月20日	12.8	12.5	0.3	14.5	15.3	△0.8
	9月20日	12.2	12.8	△0.6	14.4	15.4	△1.0
	成熟期	12.8	12.7	0.1	14.3	14.9	△0.6
分枝数 (本/株)	7月20日	4.1	4.0	0.1	1.9	2.2	△0.3
	8月20日	5.9	6.8	△0.9	4.9	5.3	△0.4
	9月20日	6.3	6.1	0.2	4.9	5.2	△0.3
	成熟期	7.3	6.7	0.6	4.8	5.1	△0.3
着莢数 (莢/株)	9月20日	69.7	63.9	5.8	62.4	64.5	△2.1
	成熟期	69.6	60.6	9.0	63.1	64.9	△1.8
一莢内粒数(粒)	1.87	1.95	△0.08	1.86	1.77	0.09	
子実重(kg/10a)	428	322	106	415	303	112	
百粒重(g)	40.5	42.0	△1.5	45.1	41.7	3.4	
屑粒率(%)	0.0	0.4	△0.4	0.3	0.4	△0.1	
品質(等級)	2中	3上	—	2下	3中	—	
子実重平年対比(%)	133	100	33	137	100	37	

注) 平年値は前7か年中、昭和62年、63年を除く5か年平均。

3. 小豆 平成6年度の作況:不良

事由:播種は平年より3日遅い5月24日に行った。播種後、適度な土壌水分があり、気温も高めに経過したため、出芽迄日数は平年より少なく、出芽期は平年並であった。出芽後、6月中は降水量が少なく干ばつ気味で生育は抑制されたが、7月上旬の降雨と中旬の好天により生育は回復した。7月中旬以降の高温により、開花期は平年より1日、成熟期は平年より8日早かった。しかし、開花前から登熟期間前半の著しい高温と干ばつ傾向により、着莢数と一莢内粒数は平年より10%以上少なく、また、登熟期間が平年より7日短かったため、百粒重も平年を約15%下回った。このため、子実重は165kg/10aで平年対比69%であった。品質は平年並であった。

以上により、平成6年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	エリモショウズ			
	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.24	5.21	3	
出芽期(月.日)	6.9	6.9	0	
開花期(月.日)	7.25	7.26	△1	
成熟期(月.日)	9.2	9.1	△8	
主茎長 (cm)	6月20日	4.8	3.8	1.0
	7月20日	15.1	15.1	0.0
	8月20日	36.4	33.6	2.8
	成熟期	35.5	34.0	1.5
主茎節数 (節)	6月20日	2.0	1.4	0.6
	7月20日	7.1	6.7	0.4
	8月20日	12.3	10.9	1.4
	成熟期	11.9	10.5	1.4
分枝数 (本/株)	7月20日	1.4	1.9	△0.5
	8月20日	2.8	2.8	0.0
	成熟期	2.6	2.3	0.3
着莢数 (莢/株)	8月20日	31.4	31.8	△0.4
	成熟期	34.7	39.6	△4.9
一莢内粒数(粒)	5.79	6.66	△0.87	
子実重(kg/10a)	165	238	△73	
百粒重(g)	10.4	12.2	△1.8	
屑粒率(%)	0.6	1.9	△1.3	
品質(等級)	2中	2中	—	
子実重平年対比(%)	69	100	△31	

注) 平年値は前7か年中、平成元年、3年を除く5か年平均。

4. 菜豆 平成6年度の作況:不良

事由:播種期は平年より3日遅い5月24日であった。5月27日の多雨により試験区が滞水し、その後、高温寡雨に経過したため土壌表面がクラスト化した。このため、出芽率は1割以下と極端に劣り、6月中旬に多数の補植を行った。6月の著しい少雨と7月上旬の低温日照不足、7月中旬から8月上旬までの干ばつにより補植後の根系の発達が抑制され生育は著しく劣った。栄養生長が抑制されたため生殖生長の開始が早まり、平年より2日早く開花期となった。また、8月中旬の多雨で二次生長による開花・着莢が発生し、成熟期が9月23日と平年より18日遅くなった。しかし、生育量不足は解消されず、分枝はほとんど無く、着莢数は平年の約6割で一莢内粒数も平年をかなり下回った。9月中旬の日照不足により百粒重は平年より約10g軽く、品質も平年より劣った。このため子実重は69kg/10aと平年を大きく下回った。

以上により、平成6年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次		改良早生大福		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		5.24	5.21	3
出芽期(月.日)		6.9	不達	—
開花期(月.日)		7.14	7.16	△2
成熟期(月.日)		9.23	9.5	18
主茎長 (cm)	7月20日	98	232	△134
	8月20日	154	283	△129
	成熟期	165	282	△117
主茎節数 (節)	7月20日	12.3	17.4	△5.1
	8月20日	20.0	21.8	△1.8
	成熟期	20.4	21.9	△1.5
分枝数 (本/株)	7月20日	0.2	3.3	△3.1
	8月20日	0.2	3.4	△3.2
	成熟期	0.2	2.9	△2.7
着莢数 (莢/株)	8月20日	12.8	32.8	△20.0
	成熟期	20.4	33.0	△12.6
一莢内粒数(粒)		3.04	4.17	△1.13
子実重(kg/10a)		69	235	△166
百粒重(g)		55.6	65.7	△10.1
屑粒率(%)		20.6	3.5	17.1
品質(等級)		3	2	—
子実重平年対比(%)		29	100	△71

注) 平年値は前7か年中、昭和63年、平成4年を除く5か年平均。

5. ばれいしょ 平成6年度の作況:不良

事由:植付けは平年より11日早い4月25日に行った。4月下旬から5月にかけて不順な天候で推移し、また浴光催芽を行わずに植えたため萌芽は遅れ、萌芽は平年より1～3日早い程度で、しかも不揃いであった。6月以降の高温干ばつで茎数は少なく、草丈は低く推移し、早生品種に不開花株がみられた。「男爵薯」は8月上旬頃より枯凋が始まり、平年より早く枯凋期を迎えた。「農林1号」は9月上旬からの多雨により黄変期直前から二次生長が始まり、枯凋しなかった。

両品種とも株あたりいも数が少なく、塊茎肥大期に夜温が高かったため肥大も劣り、上いも重は平年の78～79%と低く、でん粉価も低かった。

以上により、平成6年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	男爵薯			農林1号			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期(月.日)	4.25	5.6	△11	4.25	5.6	△11	
萌芽期(月.日)	5.29	5.30	△1	5.26	5.29	△3	
開花期(月.日)	6.28	6.29	△1	6.27	6.3	△3	
枯凋期(月.日)	8.21	8.28	△7	—	9.17	—	
茎長 (cm)	6月20日	23	27	△4	26	29	△3
	7月20日	35	43	△8	50	57	△7
	8月20日	—	—	—	54	64	△10
茎数 (本/株)	6月20日	2.7	4.8	△2.1	2.4	5.2	△2.8
	7月20日	3.1	4.9	△1.8	4.1	5.4	△1.3
	8月20日	—	—	—	4.3	5.4	△1.1
上いも数(個/株)	7.9	9.7	△1.8	9.9	11.2	△1.3	
上いも平均一個重(g)	74	88	△14	80	106	△26	
上いも重(kg/10a)	2,563	3,300	△737	3,487	4,440	△953	
中以上いも重(kg/10a)	1,859	2,500	△641	2,852	3,933	△1081	
でん粉価(%)	13.4	14.3	△0.9	11.8	15.3	△3.5	
でん粉重(kg/10a)	318	436	△118	377	637	△260	
上いも重平年対比(%)	78	100	△22	79	100	△21	
中以上いも重平年対比(%)	74	100	△26	72	100	△28	
でん粉重平年対比(%)	73	100	△27	59	100	△41	

注) 平年値は前7か年中、昭和62年、平成5年を除く5か年平均。

「農林1号」は二次生長のため枯凋せず、10月19日に収穫した。

上いも数および平均一個重は栽植密度変更(平成4年)のため参考値。

「上いも」は20g以上、「中以上いも」は60g以上の塊茎である。

6. てんさい 平成6年度の作況:不良

事由:播種は平年より1日遅い4月4日に行った。発芽は順調で4月13日に発芽期に達した。移植は天候不順により3日遅い5月12日に行った。移植後、適度の降雨と好天に恵まれて活着は良好であったため、5月の草丈、葉数は平年並に推移した。しかし、5月下旬、多雨に見舞れたためその後の生育に停滞がみられ、6月の草丈、葉数は平年より劣って推移した。その後6月中旬の少雨および7月中・下旬の寡雨によりは場が乾燥し、干ばつの様相を呈した。すなわち下位葉1~3枚の黄化・枯死が促進され、上位葉についても、軽い退緑・黄化が観察された。このため、7月、8月の草丈、葉数は平年より劣り、また根周も平年を下廻って推移した。8月中・下旬および9月中旬の長雨により、やや湿害の様相を呈したため9月の草丈、葉数、根周とも平年より劣って推移収穫は平年より3日早い10月11日に行った。10a 当り根重は7.67tで平年対比95%、根中糖分は16.24%、同96%、糖量は1245kg、同91%でいずれも平年より劣った。以上により、平成6年度の作況は不良である。

品種名(栽培法) 項目/年次		モノヒカリ(移植)		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		4.4	4.3	1
移植期(月.日)		5.12	5.9	3
収穫期(月.日)		10.11	10.15	△3
草丈 (cm)	5月20日	4.5	4.7	△0.2
	6月20日	26.9	30.6	△3.7
	7月20日	48.8	50.0	△1.2
	8月20日	52.4	56.0	△3.6
	9月20日	54.9	56.4	△1.5
	収穫期	50.6	56.3	△5.7
葉数 (枚)	5月20日	3.3	3.1	0.2
	6月20日	9.8	10.7	△0.9
	7月20日	17.5	20.4	△2.9
	8月20日	17.9	25.4	△7.5
	9月20日	20.9	28.4	△7.5
	収穫期	20.1	28.0	△7.9
根周 (cm)	7月20日	20.4	22.5	△2.1
	8月20日	30.5	31.9	△1.4
	9月20日	33.2	36.4	△3.2
	収穫期	35.2	38.2	△3.0
茎葉重(t/10a)		2.07	4.55	△2.48
根重(t/10a)		7.67	8.11	△0.44
根中糖分(%)		16.24	16.83	△0.59
糖量(t/10a)		1,245	1,366	△121
根重平年対比(%)		95	100	△5
根中糖分平年対比(%)		96	100	△4
糖量平年対比(%)		91	100	△9

注) 平年値は前7か年中、昭和62年、平成3年を除く5か年平均。